

Karakurayama
1175.8m

唐倉山登山のしおり

唐倉山にまつわる民話

「蛍堂」伝説

唐倉山には、鏡岩、裸岩、屏風岩などと呼ばれる岩場があり、64本の積み重ねられた石柱連などがありましたが、現在は数十本の石柱を残し崩れ落ちてしまいました。

昔々ずっとおかし、でいたん坊という大男が、奇岩絶壁の黒岩山より、ひとまたぎして石を運び、一夜にして蛍堂を建てようと計画しました。数人のでいたん坊が石柱をかつぎ、お堂を建てようと精を出していましたが、一人の怠け者のでいたん坊が石柱を運ぶのがいやになり、岩山の陰でさぼっていました。しばらくして「コケッココ」
と鶏の鳴く真似をしたところ、ほかのでいたん坊は、さあ大変「朝だ。朝になったぞー。」と大急ぎで、みんな大岩を投げ散らかしたまま帰って行ってしまったそうです。お堂建設も中途半端になり、それから唐倉山には、沢山の石柱が積み重なっているのだそうです。



奇石と伝説の霊山

「唐倉山」

福島県会津、南会津両保健所において、県民が健康で快適な長寿生活を築くために、誰もができる体力づくりとして里山歩きを推奨しました。そして、平成八年から平成九年にかけて実施された会津百名山選定事業により、そのひとつとして選定されました。

その後、自然と共生し、自然にやさしい心や地域住民の心のよりどころとして里山の存在を再認識し、未来への遺産としてのふるさとを大切にすることを目的に、平成十年に福島テレビにより組織されたうつくしま百名山選定委員会において、「うつくしま百名山」のひとつとして選定されております。

唐倉山の登山道

唐倉山は標高1175.8mの、岩場のスリリとした会津らしい素朴な山です。イザナギ・イザナミノミコトが祭られていたと伝えられており、かつては修験道や多くの参拝者が登った霊山です。登山道は平成二十一年度、新たに整備しましたので登山しやすくなりました。しかし、中腹から山頂にかけては、急峻で細い尾根づたいを通りますので危険な箇所もあります。慎重な登山が必要です。登山口から、かつての桑園地を進むと森林の中に入り、さらに進み急斜面を登ると見晴らしのきく尾根にでます。春にはヤマツツジ

が咲き、とても綺麗なところです。南側には燧ヶ岳から会津駒の連山、大博多山から丸山、城郭朝日岳、遠くは県境の田代山・帝釈山などの山々が望まれます。

ここからは、岩尾根をたどります。途中、柱状の大石が積み重なる御柱岩があり、それに関する伝説も残っています。微妙なバランスが必要な箇所もあり、狭い岩場を通過する際には慎重に進む必要があります。林の中、急な登りに差し掛ければ山頂は間もなくです。

狭い頂上には、明神岩と三角点があり、南への展望が開けます。

眼下には駒止峠への道と駒止山塊が大きく立ちのぼります。頂上からは、南の急な尾根を下りますが、登りの尾根に比べれば岩場もなく、下り易くなっています。しかし、急峻で滑りやすいので、木の枝につかまるなど慎重に下りる必要があります。最後に小さな尾根を越えると、登りに通った桑園地に出て、登山口へと戻ります。



「でいたん坊」が運んだ石柱



尾根からの展望

木伏地区 いきいき健康モデル事業

木伏地区では、平成21年度から南郷地域いきいき健康モデル事業実施地区として町の指定を受け、誰もが健康で生きがいを持って生活できる環境づくりに取り組んでいます。その一環として、地域住民をはじめ多くの皆様の健康づくりに貢献するために、唐倉山の登山道の整備を実施してきました。

